

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	まちなか遊休不動産利活用事業
事業主体 (連絡先)	岡谷 TMO まちなか活性化推進本部 (岡谷市郷田1丁目4番11号)
事業区分	産業振興、雇用拡大(商業の振興)
事業タイプ	ソフト
総事業費	972,924円(うち支援金:778,000円)

事業内容

閉店や廃業によって空き店舗等が増加し、賑わいが低下した中心市街地で、遊休不動産の活用を目的として昨年度より実施している遊休不動産見学会を合計5回開催した。

また、屋外空間活用として、昨年度実施した Park(ing)Day の手法を参考に、県内外の学生や地元社会人等を募り、空間づくりに係る研修会を開催、参加者自らが「過ごしたい空間」を考え、実現する「Park Design Lab」を実施した。

【遊休不動産見学会】

- 参加者数: 31名(5月/7名、7月/4名、9月/4名、12月/1名、2月/15名)

【Park Design Lab】

- 参加者数: 17名(県内6名、県外11名)
- 開催場所: 蚕糸公園

事業効果

- 見学会には都心からの参加者も多く、常に一定の参加者数を維持することができた。
また、1件マッチングに至った物件もあり、昨年度からの継続実施による手応えを感じている。
- リニューアルオープンしたばかりの蚕糸公園にて、空間づくりを実践したことで、会場としてのポテンシャルの高さを示すことができた。
今後の蚕糸公園のイベント利用におけるモデルケースとなった。
- Park Design Lab において参加者自らが過ごしたい空間を実現することで、空間づくりやまちづくりに興味を持ってもらうことができ、目的である「今後の中心市街地活性化を担うプレイヤーの育成」に繋がった。

今後の取り組み

遊休不動産見学会においては都心からの参加者も多く、空き店舗の活用に加え移住定住の相談もあることから、引き続き見学会事業を実施することで、様々な需要に対応していきたい。

また、今年度においては1件のマッチングに繋げることができたため、引き続き不動産情報を整理し、紹介可能な物件の更新を行うことで、遊休不動産の活用を図っていききたい。

昨年度実施の Park(ing)Day は(一社)ソトノバが主催したものにホストタウンとして参加したものであるが、Park Design Lab においては(一社)ソトノバを講師に招き、岡谷 TMO が主催した事業である。参加者には本事業を通じてまちづくりについて興味を持ってもらい、中心市街地活性化を担う人材候補の拡大を行うことができた。プレイヤー発掘に有効な事業であるため、今後は完全直営での運営を目指しながら継続的に実施していきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【Park Design Labの様子】

【目標・ねらい】

- ① 空き店舗の活用
- ② 屋外空間の活用
- ③ まちづくり人材の確保・育成

※自己評価【A】

【理由】

- ・両事業において市内外から多くの参加者が集まったため。
- ・遊休不動産見学会がマッチングに結び付いたため。
- ・Park Design Lab 参加者が空間づくりやまちづくりに対して興味・関心を持ってもらうことができたため。